

能登半島地震・奥能登豪雨の災害復旧治山工事 における残存型枠のハイブリッド使用事例



大谷(A溪流)災害対策工事で計画されている2号谷止工が完成しました。現在引き続き床固工、側壁工などが施工されており、8年度工事として1号谷止工が予定されています。

発注者	林野庁 石川森林管理署 奥能登地区山地災害復旧対策室
工事名	大谷(A溪流)災害対策工事 2号谷止工
規模	2号谷止工本堤 (下流面) SSSフォームレス $A=369.4\text{m}^2$ +間詰部 9.8m^2 (上流面) 間伐フォームレス $A=377.0\text{m}^2$ 床固工 (下流面) SSSフォームレス $A=149.2\text{m}^2$ (上流面) 間伐フォームレス $A=95.8\text{m}^2$ 側壁工・流路工 SSSフォームレス $A=314.8\text{m}^2$
工期	令和7年4月24日～令和8年3月13日

工事するにあたっての課題

能登半島地震そして奥能登豪雨による被災からの復旧工事が進むにつれて、奥能登では深刻な土木作業員不足が課題となっていました。特に型枠工事は専門性が高く、経験者の確保が難しい状況が続いていました。当現場では地元の離職者が雇用されていたこともあり、土木作業の未経験者でも施工ができる型枠工法を探されていました。

解決するために実施したハイブリッド使用

当初は上流面「丸太残存型枠」下流面「普通型枠」の予定でしたが、施工業者さんが施工承認を申請され、上流面は太鼓挽半割材を使用した「間伐フォームレス」、下流面と間詰部には軽くて施工性のよい「SSSフォームレス」と残存型枠のハイブリッド使用が採用されました。

■上流面：間伐フォームレス

太鼓挽半割材は、流通が減少している小径木丸太に比べて入手しやすく、面取り加工されているため軽く、寸法が均一で扱いやすいというメリットがあります。表面が揃い見栄えもよく仕上がります。



■下流面：SSSフォームレス

SSSフォームレスは軽量のU型鋼板を人力で嵌合していきだけで壁面パネルを構築できます。熟練技術も必要なく運搬・組立てが容易なため組立てが速く、部材は薄く簡単に切断加工できるため現場に合わせた施工が可能です。



施工業者の皆様からの声

「地元の若者を雇用したので未経験だったが、安全に迅速に型枠の組立てができた」

「半割れ太鼓材は軽くて扱いやすく、施工性が良い」

「集中豪雨で崩壊するなど施工の遅れがあったが工期に十分間に合った」

施工後の効果

残存型枠のハイブリッド使用により、施工スピードの向上、安全性の確保、人手不足の解消といった効果が確認されました。未経験者が現場で即戦力として活躍できることは、地域の復旧を早めることにつながります。今後も微力ながら災害復旧工事のお役に立てるよう努めてまいります。

株式会社 共生

〒160-0022東京都新宿区新宿1-23-1 TEL:03-3354-2554

